

4 具体的な取組

基本目標1

区民一人ひとりが参加する地域づくり

基本方針

1 情報提供の拡充

地域福祉や地域の取組等の情報を、具体的に分かりやすく様々な方法で発信することで、多くの区民に地域に関心を持ってもらい、地域福祉への意識を高めることをめざします。

※第6期計画で新たに取上げた取組には(★)を付けています。

	具体的取組・事業名	事業内容	協働等
子ども・子育て	1 子ども・子育てに関する情報提供	区内で安心して子育てができるよう、地域の子ども・子育てに関する情報を提供し、育児等の不安軽減ができるよう支援していきます。また、こども相談窓口の情報を区内の子育て支援者や関連機関・団体にも周知します。母子健康手帳交付時や転入の際に情報冊子を配布し、ホームページ(多摩区こそだてweb)や、かわさき子育てアプリに最新の情報を掲載します。 【所管課】 地域ケア推進課 地域支援課 認可保育所の子育て支援事業が一目でわかるように冊子を作成・配布し、保育所の地域支援事業を周知します。また子育てのヒントになる内容を掲載し、子育ての悩みや困ったときの参考にしてもらい、育児不安の解消を図ります。 【所管課】 保育所等・地域連携担当	
	2 子ども・子育てに関する講座の開催	子育ての孤立化防止や子育ての悩み解消等を目的に、専門職による子どもの成長・食生活や栄養等子育てに関する講演会等を開催し、子育て支援を推進します。 【所管課】 保育所等・地域連携担当 地域支援課	
障害	3 地域における精神保健福祉の普及啓発	区内の精神保健福祉活動に関わる様々な機関が集まり、地域における精神保健福祉分野の課題を共有するとともに、こころの健康に関する課題解決に向けて、講演会の開催等、普及啓発を中心とした取組を行います。 【所管課】 高齢・障害課	多摩区精神保健福祉連絡会議

【区民一人ひとりが参加する地域づくり】

一人ひとりが



3年後を見据えて目指す多摩区の姿

- ・必要かつ正確な情報を、一人ひとりに合った方法で提供し、幅広く区民が地域活動に参加している
- ・地域が求める人材の情報をわかりやすく発信し、新たな担い手が地域活動に参加している

【たまくの計画 掲載イメージ】

<第7期>

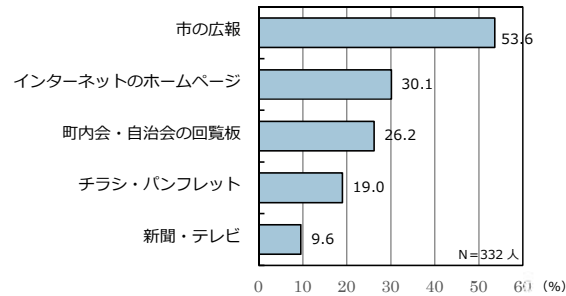
基本方針
1-1

理解と共感を広げる情報発信と場の創出

データから見るポイント

保健や福祉の情報は市の広報から

保健や福祉の情報をどこから得ているか（複数回答・上位5項目）

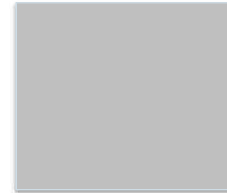


保健や福祉の情報を得るのは、「市の広報」が54.4%と圧倒的に多い状況ですが、「インターネットのホームページ」の割合も増えています。

資料：令和4年度川崎市地域福祉実態調査

【高齢者・障害者】

- 地域における精神保健福祉の普及啓発
- パサージュ・たま



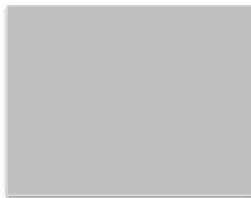
障害者団体等による活動紹介や作品の展示販売等を開催しています。

事業・取組

- ・地域における精神保健福祉の普及啓発
- ・パサージュ・たま

【子ども・子育て】

- 多摩区地域子育て情報 BOOK
- 子どもセミナー



事業・取組

- ・子ども・子育てに関する情報提供
- ・子ども・子育てに関する講座の開催

- 子ども版地ケア TAMA
- 保健福祉の相談ガイドブック



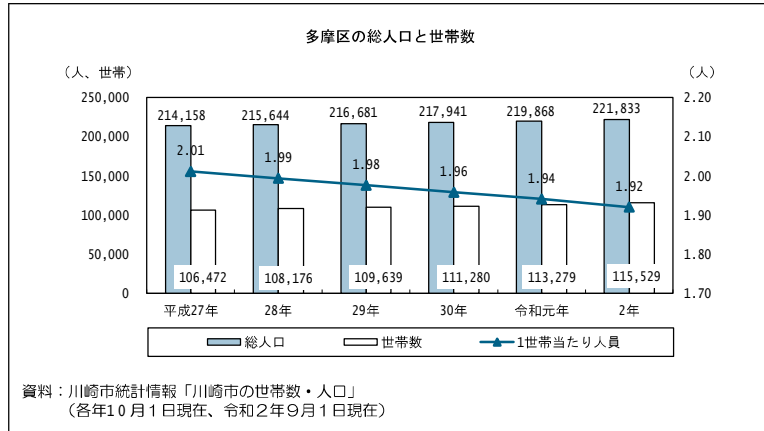
事業・取組

- ・多摩区地域包括ケアシステムの普及啓発・地域情報の発信
- ・町内会・自治会加入促進パンフレットの配布
- ・健康づくりのための情報発信、講座
- ・生活習慣病予防に関する講座
- ・多摩区健康フェスタ
- ・認知症についての正しい理解の普及啓発
- ・快適で暮らしやすい生活環境づくりのための情報発信
- ・防災対策啓発事業 etc

(2) 多摩区の現状

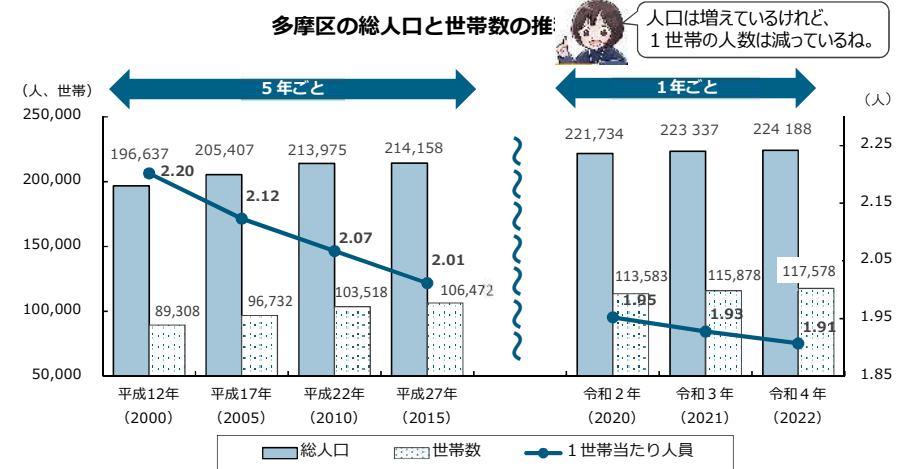
① 総人口と世帯数

多摩区の人口は、平成27（2015）年以降増加を続けており、令和2（2020）年9月1日現在で221,833人となっています。一方、1世帯当たりの人員は1.92人となっており、人口増加に対し減少傾向となっています。

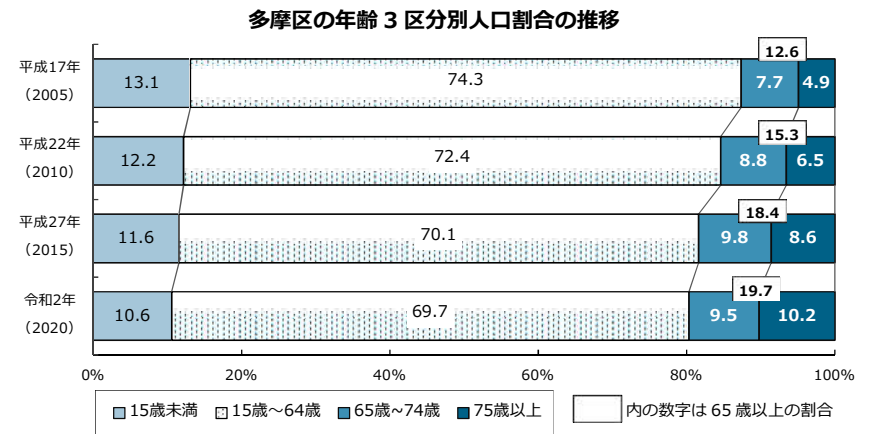


人口

1 人口・世帯数は増加傾向、1世帯当たりの人員は減少傾向



2 年少人口は減少し、高齢者人口の割合が増加傾向

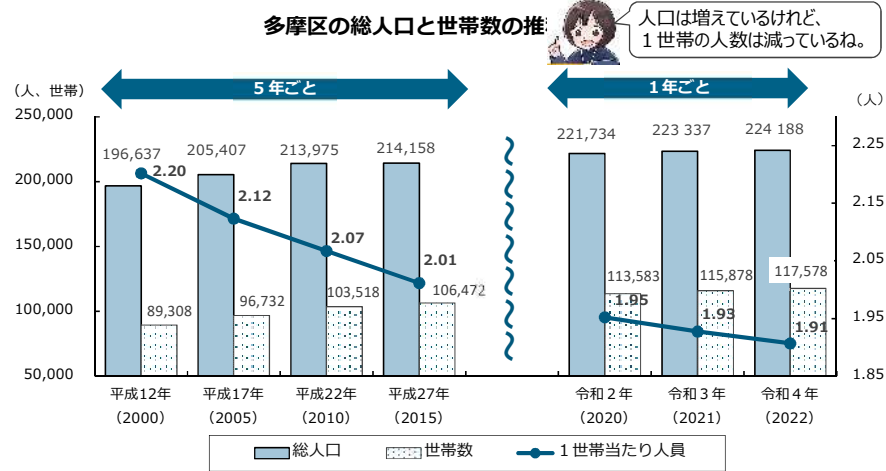


【たまくを知る 掲載イメージ】

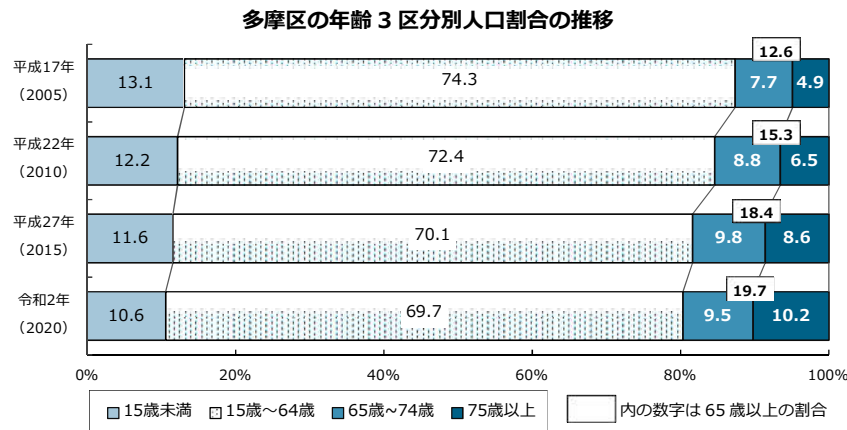
統計データから見る多摩区

人口

1 人口・世帯数は増加傾向、1世帯当たりの人員は減少傾向



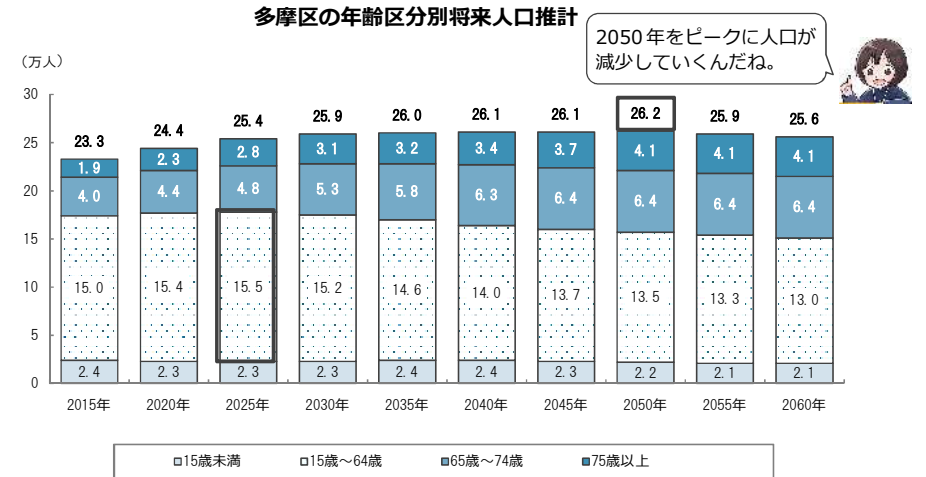
2 年少人口は減少し、高齢者人口の割合が増加傾向



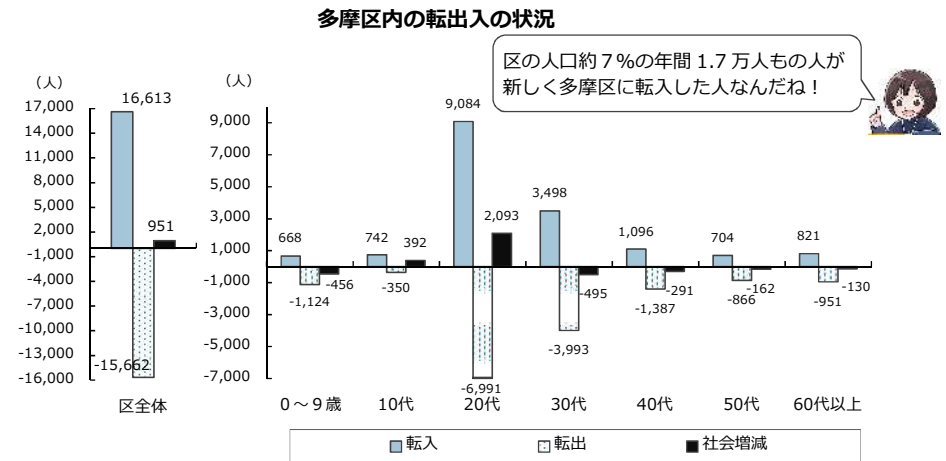
お年寄りの割合が増えているんだね。
今は5人に1人が65歳以上なんだね！！

資料：川崎市統計情報「町丁別年齢別人口」(各年 10月1日現在)

3 総人口は2050年にピーク、75歳以上人口が大幅に増加



4 20代、30代を中心に転入が多い



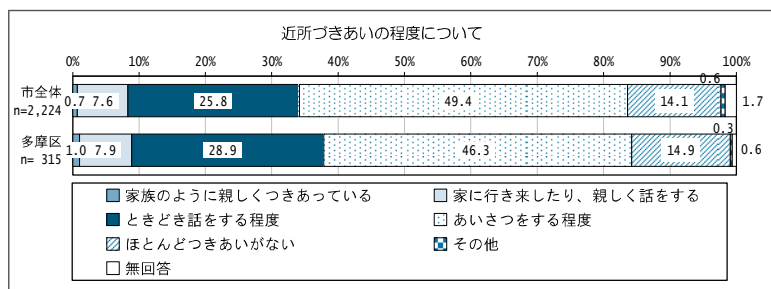
5 区民の主な生活課題

地域生活課題に関する調査から見える課題

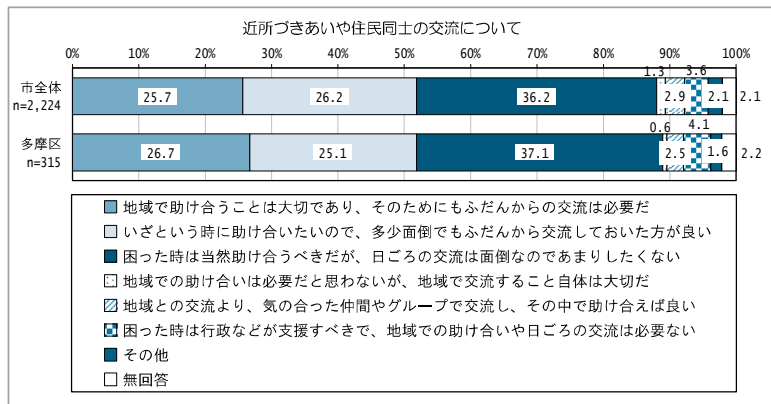
川崎市では地域福祉の実態把握を目的とし、令和元（2019）年11月～12月に市民を対象とした「地域の生活課題に関する調査」と、福祉団体を対象とした「地域福祉活動に関する調査」及びヒアリングを実施しました。そのうち、多摩区の集計から見える主な課題は以下のとおりです。

① 地域について

近所づきあいの程度は「あいさつをする程度」が46.3%と最も高く、続いて「ときどき話をする程度」（28.9%）、「ほとんどつきあいがいい」（14.9%）となっています。

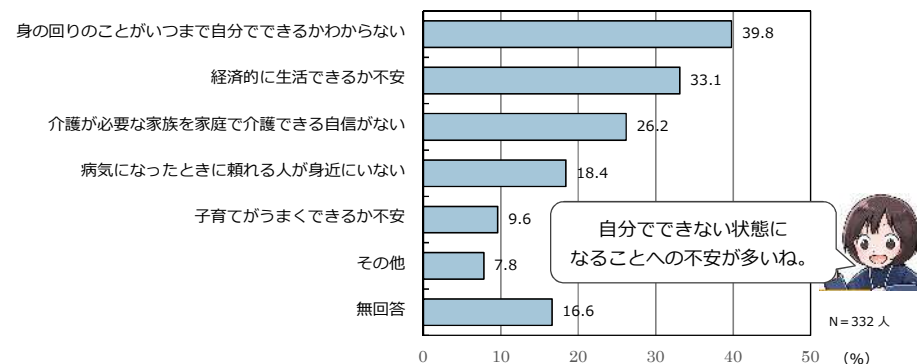


近所づきあいや地域住民同士の交流の必要性について、地域で助け合いたいので「ふだんからの交流は必要」（26.7%）、「ふだんから交流しておいた方がよい」（25.1%）を合わせると51.8%がふだんから交流の必要性を感じていますが、「困ったときは当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない」という方も37.1%います。



Q1 家庭生活の中で不安を感じることはどんなこと？

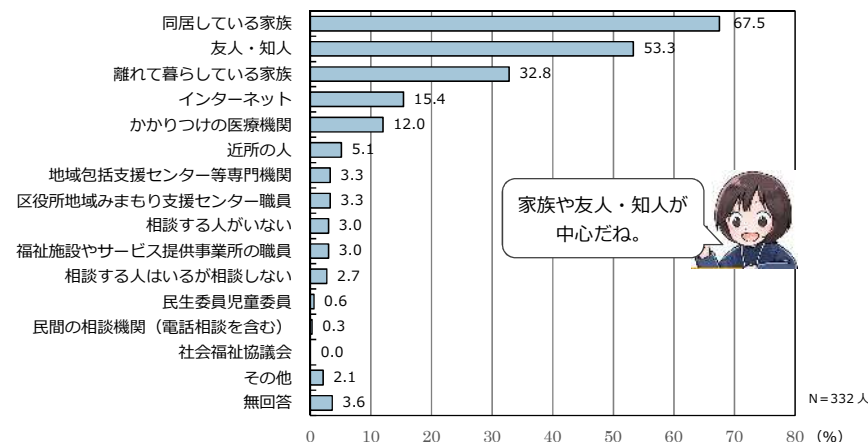
家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか（複数回答）



「身の回りのことがいつまで自分でできるかわからない」が39.8%と最も高い結果となりました。次いで、「経済的に生活できるか不安」が33.1%、「介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない」が26.2%、「病気になったときに頼れる人が身近にいない」が18.4%と続いています。

Q2 生活での心配ごとや悩みごとを相談する人は誰？

日常生活で心配ごとや悩みごとがある時誰に相談していますか（複数回答）



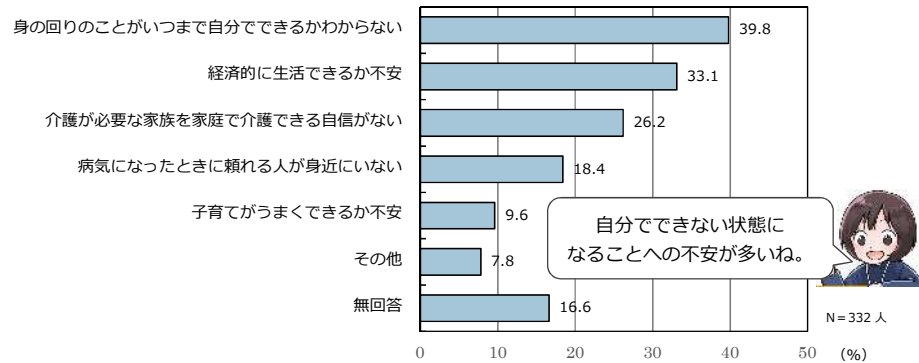
「同居している家族」が67.5%と最も高い結果となりました。次いで、「友人・知人」が53.3%、「離れて暮らしている家族」が32.8%と続いています。

【たまくの福祉を調べる 掲載イメージ】

■ 地域のこと

Q 1 家庭生活の中で不安を感じることはどんなこと？

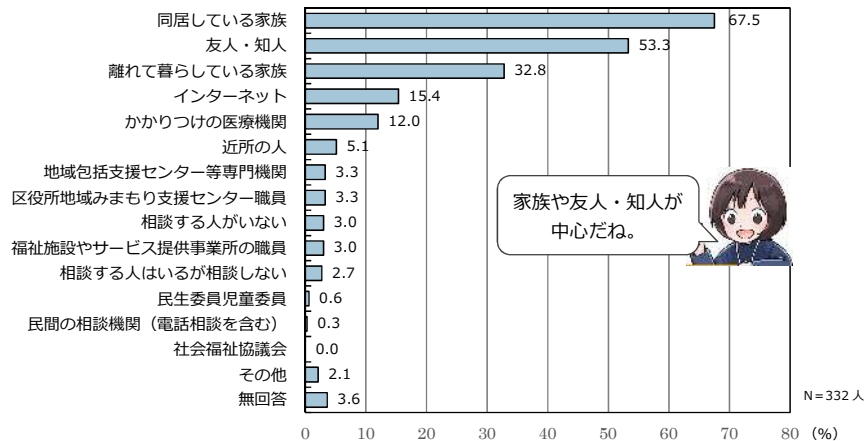
家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか（複数回答）



「身の回りのことがいつまで自分でできるかわからない」が39.8%と最も高い結果となりました。次いで、「経済的に生活できるか不安」が33.1%、「介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない」が26.2%、「病気になったときに頼れる人が身近にいない」が18.4%と続いています。

Q 2 生活での心配ごとや悩みごとを相談する人は誰？

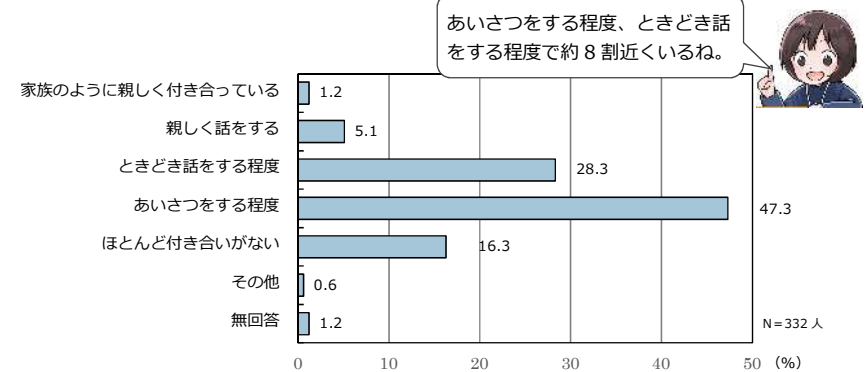
日常生活で心配ごとや悩みごとがある時誰に相談していますか（複数回答）



「同居している家族」が67.5%と最も高い結果となりました。次いで、「友人・知人」が53.3%、「離れて暮らしている家族」が32.8%と続いています。

Q 3 ご近所の方とは、普段どの程度のお付き合い？

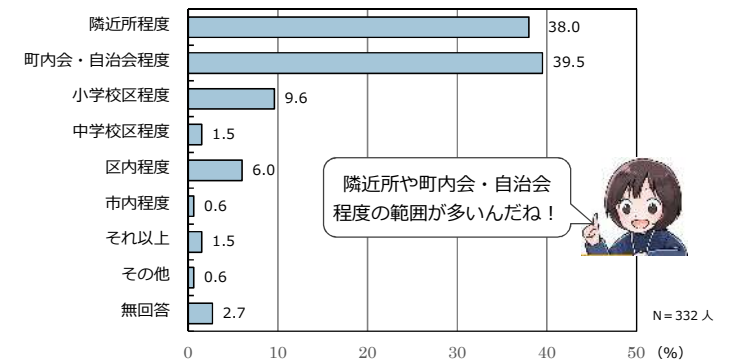
普段ご近所の方との程度のつきあいをしていますか



「あいさつをする程度」が47.3%と約半数、次いで「ときどき話をする程度」が28.3%、「ほとんど付き合いがない」が16.3%と続き、この3つで全体の約9割を占めます。「親しく話をする」が5.1%、「家族のように親しく付き合っている」が1.2%と、この2つを合わせても全体の1割に満たない結果となっています。

Q 4 助け合いができる地域ってどれくらい？

助け合いができる「地域」の範囲をどの程度だと考えますか



助け合いができる地域の範囲については、「町内会・自治会程度」が39.5%で最も高く、次いで「隣近所程度」が38.0%で、全体の8割近くを占めています。